

芸術dance 「無限大∞パイプオルガンの宇宙—バハから現代を超えて—」

4月12日[金] 19:00開演 コンサートホール



鋭敏なダンスと荘厳な音世界の一期一会

ダンサー・振付家として活躍する勅使川原三郎 ロヴィゼーションまで贅沢なプログラム。バロックと多彩な音楽活動で注目される鈴木優人のオルクとモダンの2面を持つ当劇場のオルガンならではのダイナミックな演出も見逃さない。

構成・演出・振付・照明: 勅使川原三郎
出演: 勅使川原三郎 / 佐東利穂子 / KARAS
オルガン: 鈴木優人

チケット料金 【全席指定】S席:3,000円/A席:2,000円/※65歳以上:2,000円/※25歳以下:2,000円/※高校生:1,000円

—オルガンという楽器についての思いは?

私がバハのコラールを聴く時間。ドロイングの複雑な終わりのない曲線を引き続けている間、コラールは指先、全身を運んでくれます。ポアンカレ、ヒッグス、動的平衡、舞踏物理学...消滅音域と連なる無限音。皮膚から骨を砕き内臓を貫通するように浸食するのです。遠近法、間と間、遠くから表面へ内部を超え、直接という深遠を音で奏でる「巨大な呼吸器官である」と、私はこの楽器の事を考えています。

—オルガンの鈴木優人さんとは初共演ですね。

鈴木さんとの選曲打ち合わせは、私が用意していた構成案にそって、スイスイ泳ぐように滑らかに進みました。柔軟性、的確、それが鈴木さんの特徴ではないでしょうか。まさに演奏には濃みがなく、伸び縮み高低振幅は自在。が、打ち合わせ



がそのままステージに複製されるとは到底考えられない。そこが最も興味深く、面白くなりそうだと思う点です。

勅使川原三郎 SABURO TESHIGAWARA

てしがわら・さぶろう ダンサー、振付家、演出家。1985年以降、自身のカンパニーKARASと共に世界中で公演を行い、その独自のダンスメソッドと独創的な作品が世界のアートシーンから高い評価を受けている。自身の作品にとどまらず、パリ・オペラ座バレエ団をはじめ欧州の主要バレエ団への振付や、ヴェニス・フェニーチェ歌劇場他へのオペラ演出なども手掛ける。

—勅使川原三郎さんとの創作はいかがですか。

勅使川原さんと一緒に舞台を創るのは初めてですので、創作過程、ダンスとオルガンの共存、音と光の絡み合い...全てが未知数でエキサイティングです。世界最大級のオルガンとダンサーが向かい合い、スケールと繊細な哲学が両立するような舞台になるのではないかと予感しています。勅使川原さんのパワーを間近に感じながら演奏したいと思います。

—演奏曲はどのような構成になるのでしょうか?

3つのオルガンから成るこの劇場の楽器を最大限に駆使した音楽構成です。知られざる名曲から超有名曲までコンサートとしてもお楽しみ頂ける内容ですが、それが勅使川原さんのダンスによって解釈され新次元の体験になるはず。まさにその場で創られていく即興演奏が入っているのも大きな特徴です。本来オルガンは即興すべき楽器ですので。

MASATO SUZUKI 鈴木優人

すずき・まさと 東京藝術大学大学院修了、オランダ・ハーグ王立音楽院修了。オルガンをヨス・ファン・デル・コーイ、鈴木雅明に師事。バハ、コレギウム・ジャパン(BCJ)のメンバー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。2009年新国立劇場「ボッペアの戴冠」演出、12年東京シビックホールで「オルフェウス」指揮など、指揮、演奏、作曲、演出と幅広い活動を続ける。



主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京歴史文化財団)

ネビュラプロジェクト・プロデュース公演 『シレンシオ』

4月28日[日] 10:00 チケット発売開始(予定)

7月2日[火]~7日[日] プレイハウス

首藤康之と小野寺修二の新たな挑戦!

パフォーマンスの新境地を開拓し続ける小野寺修二と名だたる振付家を魅了し続けるダンサー首藤康之が強力タッグを組み、世界を驚愕させた「空白に落ちた男」から5年ぶりに新作を発表。今回は透明感に溢れ無垢な存在であり続ける女優・原田知世

にイメージを触発され、丹念に物語を紡ぐ。極力言葉のない新たなフィジカルシアターに挑む。



首藤康之



原田知世

作・演出:小野寺修二

出演:原田知世/梶原暁子/川合朗/藤田桃子/小野寺修二/首藤康之

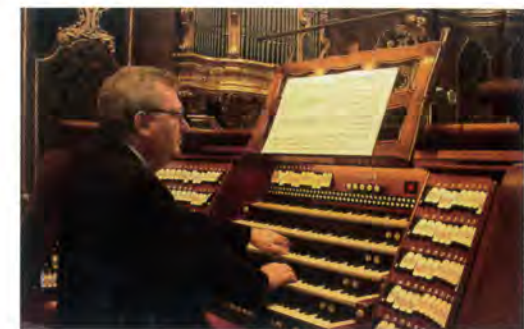
|チケット料金|【全席指定】S席:6,800円/A席:6,300円/中高生シート1,000円 |お問合せ| ナッポスユナイテッド TEL:03-5342-0909

7月公演スケジュール表

ヒトコト おおよそ身体を使って何かをする上で、頭で分かってそれで出来るということではなく、実際に身体を使って初めて分かるのですが、だからといって毎回新鮮に初めましてのテイで、遠回りをしてしまう自分は、「要領悪すぎ!」と後から歯ざりする思いです。でもやはり、今回も時間を掛けて作ります。前回より少しは成長出来ていることと信じたいです。小野寺修二

主催:ネビュラプロジェクト

ドイツ・オルガン作品の伝統ある響き、そして重厚な音色。巨匠エドガー・クラップを育てたドイツの音楽教育環境とは...



東京芸術劇場オルガニスト 小林英之

レーゲンスブルガー・ドームシュバツェン(レーゲンスブルクのドーム雀たち)という少年合唱団がある。ドイツ中南部の古都レーゲンスブルクの大聖堂に、西暦975年に設立された合唱団である。現在は全寮制の、音楽教育に重点を置いた小学校から高校までの私立学校となり、多くの音楽家を輩出している。クラップ氏もその出身である。ある時私が「どうやって勉強したら、膨大なレパートリーをいつでも弾ける状態にしておけるのか。」と尋ねたら、「子供の頃からオルガンを弾いていたので、自然に身につけてしまった。大学に入る前にはバハ全曲をはじめ主なオルガン曲は弾けるようになっていた。」と答えられた。「子供の頃といっても、足鍵盤もあるから、本格的な曲が弾けるのはせいぜい中学生からでしょう?」と聞くと、レーゲンスブルクの寮には、足鍵盤の位置が高い子供用の演奏台を取り付けたパイプオルガンがあるとのこと。おそらくそういう見てわかる道具類以外に、千年以上の音楽教育の蓄積や環境は、目に見えない影響を子供たちに与えているに違いない。

今回の東京芸術劇場でのリサイタルのためには、日本ではあまり演奏されることのない20世紀ドイツの作曲家たちの作品をリクエストした。ヘラーはクラップ氏と同郷のバンベルク出身。ヘラーの父親はバンベルク大聖堂のオルガニストで、クラップ氏一家とも親しかった。ミュンヘン音楽アカデミーでは、レーゲンの弟子ヨーゼフ・ハースに作曲を学んでいる。作品は印象派風で響き美しい。ゲンツマーはミュンヘン音大でのクラップ氏の和声学の先生。作曲をベルリン音楽大学でヒンデミットに師事。オルガン独奏曲「交響的協奏曲第1番(1973)」はクラップ氏が初演をしている。レーゲンは1920年頃までのドイツで、最も影響力のある作曲家であった。作品はあらゆる分野にわたり数多いが、特にオルガン作品にはロマン派の作曲家にしてはめずらしく腰を据えて取り組んでいる。作風は、「トッカータ」「フーガ」「パッサカリア」といったバロックの形式に、「無調」になってしまう直前の、果てしない半音階技法を盛り込

んだ濃厚、重厚なものである。演奏技術の困難さ、同時に扱う音の多さから、オルガニストに多大な負担を強いるため敬遠する人が多い。19世紀以降のオルガン音楽史は、フランスの場合はパリ音楽院オルガン科をたどっていけばいたい理解できるのだが、ドイツの場合はあちこちに点在する都市を作曲家たちが複雑に行き交い、大きな流れを掴みづらい。今回の演奏会後半は、「レーゲル」「ヒンデミット」「ミュンヘン」がキーワードとなりそうである。最近オルガンに限らず、作品についての作曲家の意図、背景、当初の演奏といったことはさておき、作品はあくまで自己表現の手段と言わんばかりの演奏が目につく。クラップ氏の音楽的に豊かな人間関係、環境の中で「子どもの頃いつの間にかできるようになっていた」という演奏は、エンタテインメント的派手さはないかもしれないが、音楽の本来あるべき姿というようなものを感じさせてくれるのではないと思う。

パイプオルガン講座 特別編

6月6日[木] 14:00開始 シンフォニースペース

エドガー・クラップのオルガン・リサイタル

講師:小林 英之(東京芸術劇場オルガニスト) |参加料金| 1,000円 ※高校生以上を対象とした内容となります。 ※未就学児はご入場いただけません。



東京芸術劇場パイプオルガンコンサートVol.16 エドガー・クラップ オルガン・リサイタル

6月27日[木] 19:00開演(18:00ロビー開場) コンサートホール

オルガン:エドガー・クラップ

J.S.バハ / 前奏曲とフーガ ニ長調 BWV532、トリオ・ソナタ 第5番 ハ長調 BWV529、パッサカリア ハ短調 BWV582
ヘラー / コラール変奏曲「イエス、我が喜び」Op.22/2
ゲンツマー / ソナタ 第2番
レーゲル / バハ名によるファンタジーとフーガ Op.46

|チケット料金|【全席指定】S席:3,000円/A席:2,000円



エドガー・クラップ

1947年、バンベルク生まれ。ドイツ・ミュンヘンでフランツ・レールドルファーにフランス・パリでマリー・クレール・アランに師事。71年ミュンヘン国際音楽コンクール・オルガン部門で優勝。彼の技巧や音楽的センスは高く評価され、国内外で精力的に演奏活動を展開している。またレパートリーはバロック以前から現代に至るまで幅広く、特にJ.S.バハのオルガン楽曲において精通している。演奏活動のほか、後進の指導についても積極的に行っており、これまでの演奏及び教育的活動に対して83年フランス共和国音楽賞を授与する。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京歴史文化財団) 後援:東京ドイツ文化センター